

目指す学校像	学校に関わる全ての人々が、自ら多様な個性を生かしながら成長し、子ども一人ひとりの輝く瞳と笑顔の実現に向けて協働する学校。
重点目標	1 学ぶ意欲や自己肯定感を高めるカリキュラム・マネジメント (学びの自律、探究的な学びの追求) 2 子ども一人ひとりが安心して学び、進んで運動する教育環境整備 (子どもの姿の共有、健幸づくり) 3 親和的コミュニケーションでつながる、つなげる教育活動の展開 (学校・家庭・地域の協働) 4 教職員がやりがいを感じながら学び合い、力を発揮する教職員研修 (非認知能力の育成)

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価	
年度目標								実施日令和6年2月9日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○情報機器の活用について教職員、児童ともに肯定的な意識が高い。 ○学習状況調査の平均正答率は、全国や市と比べて高い状況が続いている。 ○児童向けアンケート結果等から、「課題の解決に向けて自分で考え、進んで取り組んでいる。」「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。」「と自信をもって答えられる児童の割合が他の項目と比べてやや低い傾向が見られる。 (課題) ○学習者用端末の持ち帰りと併せて、家庭の端末等で課題に取り組めるようにする ○デジタルをうまく使い、教員が課題を提示し、児童の解答、回答から役立つ情報を集め、それらを踏まえて授業、取組を改善していく。	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じた目標や内容を記した年間指導計画に基づき、情報リテラシーを計画的に育てる。 探究的な学びにより、学ぶ意欲や自己肯定感を高める授業実践、カリキュラム・マネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> 情報リテラシーについて発達段階に応じた目標や内容を記した計画を作成し、低学年段階から、児童が端末を活用し、教室だけでなく、家庭でも調べたり、共同でまとめたりする学習に取り組めるようにする。 さいたま市スクールダッシュボードについて、保護者や地域の方々の理解を得て運用、利活用する。 民間企業等外部講師を招聘した学習、教員と児童がともに学び、試行錯誤しながら課題の解決を目指す探究的な学びを年間計画等に位置付けることで、より見通しをもちながら継続的に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①情報端末やデジタル教材について、低学年では、学習に使うことができるようになったか。中学年では、課題解決のために使うことができるようになったか。高学年では、教室外でも活用できたか。 ②学習状況調査やスクールダッシュボードのデータを、児童の学習状況改善に役立てることができたか。 ③各学年で民間企業等外部講師を招聘した学習、教員と児童がともに学び、試行錯誤しながら課題の解決を目指す探究的な学びを実施することができたか。 					
2	(現状) ○あいさつやいじめの防止について、児童会によるキャンペーンや自主的なゴミ拾い活動など、児童が主体的に取り組む姿が見られる。 ○学校評価に係るアンケートで、「場面や目的に応じて丁寧な言葉遣いができる」と肯定的な回答をした保護者の割合が比較的低い。 ○運動時間の減少や学習以外のスクリーンタイムの増加などの傾向、3年に渡るコロナ禍により、運動する意欲や気力の低下が危惧される。 (課題) ○市教委が進める「Sola ルーム」について、本校の実態に合わせて運用し、家庭地域の理解、協力を得る。 ○児童が自分から進んで運動できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 学校と保護者が子どもの姿を共有し、支援の在り方を話し合う機会の創出 より多くの児童が楽しく、自分から進んで学び、運動できる場、機会の創出 	<ul style="list-style-type: none"> 年間2回の個人面談(全員・希望)及び教育相談日の取組について、年間日程表を作成し、学校HPに掲載、周知することで、保護者が活用しやすい状況にする。 学校課題研究における「考え、議論する」道徳の授業づくり、授業実践研究の成果を生かした取組を進める。 日課を工夫し、運動の時間、機会を増やす。(ロング昼休みの新設、運動を自分で選び決める機会づくり) 自由な雰囲気のもと、遊びの延長線上で運動に慣れ親しむような体力向上の取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者は、個人面談や教育相談日、学校行事や授業参観・懇談会等の機会を活用し、子どもの学習、生活の様子を共有することができたか ②授業参観等の機会に、道徳科の授業を公開するなど、保護者の理解を深め、協力を得ることができたか。 ③児童が「体育の授業が楽しい。」と感じているか。また、運動会や体力向上の取組に進んで参加しているか。 ④目的を明確にし、児童の実態を踏まえた体育授業、体力向上の取組、運動会等体育的行事が実施できたか。 					
3	(現状) ○令和4年度に立ち上がった、本校学校運営協議会では、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、「親和的なコミュニケーション力」を育むことが大切との結論に至った。 (課題) ○長年に渡って積み重ねられてきた、SSN諸団体の多様な活動と豊かな経験を生かし、変化する社会に対応させ、5年後、10年後へとつなげていくことが求められる。	<ul style="list-style-type: none"> 学校と家庭、地域が率直に話し合い、ともに学校をつくる雰囲気づくり 子どもの学び、成長を支援するSSN諸団体による活動 	<ul style="list-style-type: none"> 学習室、自然観察園等を工夫し、PTA、防犯ボランティアの見回りコース等として、児童とふれ合ったり、環境整備等の活動に参加したりできるようにする。 保護者、地域の方々が参観、参加、参画できる場を具体的に示し、学校HP等で周知する。 「親和的コミュニケーション」をキーワードとして、学校運営協議会とSSNを一体的に推進する仕組みをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①PTA保護者、地域の方々が「学校に行きたい。」「学校づくりに参画したい。」と感じているか。また、「参画の機会がある」と感じているか。 ②教職員や児童が学校運営協議会に参加する、家庭、地域が教育活動に参加できるようにするなど、学校と家庭、地域がお互い率直に語り合うような場、機会をつくられたか。 					
4	(現状) ○教員等の意識調査の結果から、全体として職務にやりがいや満足感を感じている。具体的には、「児童に学力が身に付いたと実感したとき」「児童と協働して成果をあげたとき」「児童によい変容が見られたとき」「保護者や地域、児童から感謝されたとき」にやりがいや満足感を感じるとの肯定的な回答が多い。 (課題) ○学校評価に係る保護者アンケートでは、全体的に見ると肯定的な回答の割合が高いが、子どもの主体性や自己肯定感に関する項目で肯定的な回答の割合が低くなる傾向が見られる。	<ul style="list-style-type: none"> 子どものよい変容を見取り、評価し、学びがいを実感できる教職員研修 授業の質を高め、やりがいや満足感を一層高めるための業務改善、学校行事等教育活動の工夫改善 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の「教育に携わる者として自ら成長するとともに、児童とともに学び、子ども一人ひとりの力を引き出し、伸ばしたい」という思いを支えるため、学校自己評価の手法等について工夫改善を図る。 限られた時間、物、予算、そして人により教育活動の質の維持、向上を図るため、PTA保護者、SSNとの協働を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①アンケートの回答率を維持向上させるとともに、子どもの成長、よい変容を共有、実感することができたか。 ②教職員の意識調査について、高いやりがいや満足感を維持するとともに、家庭、地域の参画による教育効果を感じることができたか。 					